

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	① (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
御提案件名	汚染処理水の保管における密封容器充填と継続的管理の手法
御提案者	北海製罐株式会社 山田修正
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>飲料用の小型空缶 (特殊仕様) に汚染処理水を充填し巨大倉庫にて保管する。 市販のコーヒー用空缶をベースとし缶胴金属板厚を特殊仕様に改造し、加えて天地の蓋に関しては飲み口を排除した缶に高温 (90~95 度) に加熱した汚染処理水を充填する (缶の保証期間の目安を5年と仮定して開発する)。 巨大倉庫にて保管し任意の時期に漏洩の有無をケース打音検査機にて検査を行うことができる (検査機の台数を増やせば全数でも検査は可能)。 不具合缶発生時および5年の保管期間満了時に内容物入りの缶をそのまま潰し、改めて充填する。 これを廃棄可能時期まで繰り返す。 飲料缶充填のノウハウを転用することで充填時の密封性の確認が可能。 更に小型缶にすることで万一の漏洩発生時のロット区分が最小限に止める事が可能。 ケース打音検査による漏洩の有無を系統的に管理することが可能。 製缶・充填などこれまでの管理手法が完成しており、漏洩発生時の対応まで管理手法が確立している。 500t/日の2倍の処理能力を想定しているため、既に貯蔵している大型タンクの汚染水もALPS 通過後に同時進行で充填することが可能。 ただし製缶、充填工場、中継倉庫、保管自動倉庫、ケース自動打音、検査設備などの設備は全て新設となる。</p> <p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む) <p>缶詰技術は歴史を有しており特に「漏れない」ということに関しての知見が豊富。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化に向けた課題・留意点 <p>容器の材料 (缶材、内面塗料など) が汚染処理水に対してどの程度の耐性があるか、事前試験の協力を要請したい。 最終的な充填場所の作業環境下の技術者の安全対策。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等) <p>当社のグループには工場建設から製缶設備、充填設備、保管設備までをトータルで立案・建設・設置を行うカンパニーがあるので、全てを一体化して取り組むことができる。 関東地区にモデルとなる工場があるため、検討段階での視察を提案します。</p> <p>具体的な提案書が別途ございますので、必要があればご連絡ください。</p>	